

産学官連携で取り組む IT 人材の確保・育成について 「宮崎－バンングラデシュモデル」

宮崎市 観光商工部 工業政策課

1. はじめに(宮崎市の抱える課題など)

宮崎市では、中心市街地の店舗やオフィスビルの「空洞化」や若年者層の県外流出に対応する取組として「まちなか 3000 プロジェクト」を立ち上げ、中心市街地への企業誘致に注力してきました。このプロジェクトは、中心市街地へ主に IT などの情報サービス企業を誘致し、空きオフィスの問題解決を図るとともに、まちなか人口の増加との相乗効果で、飲食を中心とする空き店舗問題の解決も図ろうというものです。2015 年度から 2024 年度までの 10 年間で、中心市街地に 3,000 人の雇用を創出することを目標にしていますが、2020 年度末の段階で 2,800 人を達成しています。

そのような中、誘致企業から聞こえてきたのが、全国的に優秀な IT 技術者の確保が難しい、といった新たな課題でした。

この課題解決に頭を悩ませている中で、市内の IT 企業が、バンングラデシュの IT 技術者を採用

したというニュースが飛び込んできました。宮崎市内の IT 企業が抱える人材確保の課題解決のヒントをそこに見出した当時の関係者の方々には、敬服の念を抱かずにはられません。本稿では、こうしたきっかけから始まった、いわゆる「宮崎－バンングラデシュモデル」について紹介します。

2. これまでの取組(宮崎－バンングラデシュモデルのスキーム)

本事業は、2017 年度から、独立行政法人国際協力機構 (JICA) と宮崎大学、宮崎市などが一体となって取り組んでいるものです。

具体的には、日本での就業を希望するバンングラデシュの高度 IT 技術者に対し、次のように役割分担して支援しています (図－1)。

- ① JICA は、バンングラデシュ国内で、日本語教育や日本のビジネスマナーなどの授業を 3 カ月間行います。
- ② 宮崎大学は、留学生として大学に呼び寄せ、日本語や日本で生活する上での必要な知識を習



図－1 スキーム

得する授業を3カ月間行います。

- ③ 宮崎市は、市内のIT企業に就職した際、採用に要する仲介手数料の一部を採用企業に補助します。また、既に市内IT企業に就職している方や、宮崎大学に留学中のバングラデシュIT技術者に対し、宮崎市での暮らしになじんでもらうためのセミナーや市民との交流会等の事業を展開しています。

なお、留学中には、授業の合間に就職予定の市内のIT企業でインターンシップも行い、企業には就職後すぐに職場になじめるようご配慮いただいています。

3. これまでの実績

こうした関係者の方々のご尽力により、これま

で、市内の企業延べ18社に38人のバングラデシュIT技術者が採用されました(表-1、写真-1)。一度に複数人採用した企業や、複数年にわたって採用して下さる企業、この制度をきっかけに宮崎市に拠点を構えた企業があることから、バングラデシュのIT技術者のレベルの高さはもとより、この「宮崎-バングラデシュモデル」のプログラム設計や実施体制が優れていることがご理解いただけるものと思います。

4. 本市の関わり方(取組)

写真-2は、防災に関するワークショップの様子です。日本特有の文化や生活上の基本的なルールなどを学んでもらい、IT技術者の方々に、楽しく快適に本市で生活してもらうため、こうした

表-1 宮崎-バングラデシュモデルにおけるバングラデシュIT技術者採用実績

| 宮崎大学への留学時期 | 市内企業への採用時期 | 市内の採用企業数 | 採用者数 |
|------------|------------|----------|------|
| 平成30年 4月 | 平成30年 7月 | 4社 | 6人 |
| 平成30年 10月 | 平成31年 1月 | 4社 | 7人 |
| 平成31年 4月 | 令和元年 7月 | 1社 | 2人 |
| 令和元年 10月 | 令和2年 1月 | 4社 | 10人 |
| 令和3年 1月 | 令和3年 4月 | 5社 | 13人 |
| 計 | | 18社 | 38人 |



写真-1 市役所内で行われた歓迎セレモニーの様子



写真－２ 防災に関するワークショップの様子



写真－３ 地元高校で実施するプログラミング教室の様子

場を提供しています。

また、写真－３は、市内の高校生と交流している様子です。生徒が、バングラデシュのIT技術者の方から英語でプログラミングの基礎を学ぶ内容となっていて、生徒たちからもIT技術者の方々からも、大変好評です。

このように、バングラデシュ人に対する市民の理解を深めること、多様性を受け入れる風土づくりを進めることが、行政の大事な役割と考えており、今後もこうした取組を継続していきたいと考えています。

ご縁があって宮崎にお越しいただいたIT技術者ですので、まずは宮崎での暮らしを楽しんでもらえるように、今後も支援に取り組んでいきたいと思っています。

5. 今後の展開

(1) 宮崎－バングラデシュモデルの新展開

この「宮崎－バングラデシュモデル」は、JICAの事業は昨年度に終了し、今年度から、宮崎大学とバングラデシュの大学が共同で事業を継承しています。

(2) 「B-MEET」※の立ち上げ

本市は、2020年JICAの「草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）」に応募し、2021年3月に採択されました。現在、実施団体の宮崎大学において、バングラデシュ国内の企業に勤めるIT技術者や、IT以外の他分野（建設、土木、農業等）の知識を持つIT人材の育成事業を進めています。

※採択された事業の名称は、「宮崎－バングラデシュICT人材育成事業」(Bangladesh-Miyazaki ICT Engineers Educational Training Project。英語表記の頭文字で略称「B-MEET」)で、実施期間は2022年1月～2024年12月を予定しています。

6. おわりに

外国人のIT技術者を採用するにあたっては、受入企業の協力も必要です。社員に対し、事前に外国の技術者を採用する必要性や、同じ会社の仲間として助け合っていくメンバーであることを認識してもらい、IT技術者も日本人のスタッフも安心して一緒に働くことのできる環境を整えていただければと思います。

これから、この取組が、IT関連以外の製造業やサービス業などの産業分野の企業においても広がって、バングラデシュと宮崎の経済交流促進につながることを期待しています。今後も、IT技術者を採用したいという地元企業を後押ししながら、支援を継続していきたいと思っています。